

(ISC)² 倫理規約

(ISC)²が認定した全ての情報システムセキュリティ専門家は、認定取得後もその知識を日々の活動において維持しなければならない。

認定者個々人は、当倫理規約に従う必要がある。尚、当倫理規約に意図的あるいは故意に違反した場合、(ISC)²審査委員会は、CISSP認定の取り消し処分をすることがある。

当倫理規約は、CISSP個々人に4つの規律を義務付けている。各規律は、CISSP個々人の倫理的判断に代わるものではない。

尚、規律毎に詳細な指針を示した。(ISC)²審査委員会は、これらの指針を基にCISSP個々人の認定維持の可否を判定するが、これらの指針はあくまで勧告であり、必須事項ではない。CISSPが日常の活動において倫理的ジレンマに直面したとき、その状況を分析し、その問題を解決するための糸口として参照されたい。

倫理規約の序文

- ・ 社会の安全性を高め、当事者の責務および相互の義務を果たすには、最高レベルの倫理行動規範に従う、もしくは従う姿勢を示す必要がある。
- ・ よって、当倫理規約の規律を厳守することがCISSP認定の条件となる。

倫理規約の規律

1. 社会、一般大衆の福利、およびインフラを保護する。
2. 法律に違わず、公正かつ誠実に責任を持って行動する。
3. 当事者に対して、十分かつ適切なサービスを提供する。
4. 専門知識を高め、維持する。

上記規律を達成するため、以下に指針を示す。

本指針の目標

以下の指針の達成を推進するに当たって、当委員会は次の責務を果たすものとする。

- ・ ジレンマを解決するための指針を示す。
- ・ 次の分野における適切な行動を促進する。
 - ・ 研究
 - ・ 指導

- ・ 認定候補者の選定、指導、支援
- ・ 認定の評価
- ・ 次のような行動の抑制に努める。
 - ・ 不必要な心配、不安、疑惑を煽る。
 - ・ 安易に安心感を与え、根拠のない保証をする。
 - ・ 悪い習慣を承諾する。
 - ・ パブリックネットワークに脆弱なシステムを接続する。
 - ・ 非専門家と繋がりを持つ。
 - ・ 未経験者を認める、または未経験者と連携する。
 - ・ 犯罪または犯罪的行為に関わる、あるいは関わっているように見える。

上記の目標はあくまでも参考として提示されたものであり、専門家がこれらに同意する必要はない。

また、CISSPが日々の活動において選択に迷った場合、以下に示す指針があくまで勧告であることを覚えておく必要がある。尚、これらの指針が、倫理的な行動規範をすべて網羅しているとは限らない。よって、CISSPは、必ずしもこれらの指針に同意する必要はない。

但し、倫理規約の序文と規律には必ず従う必要がある。規律の内容が矛盾する場合は、規律の順序に従って解決しなければならない。これらの規律は優先度が等しいわけではなく、規律間の矛盾は倫理的ジレンマの発生を促すものではない。

1. 社会、一般大衆の福利、およびインフラを保護する
 - ・ 情報システムにおける世間の信頼性を高め、それを維持する。
 - ・ 万全な情報セキュリティ対策についての理解を促し、その必要性を認識させる。
 - ・ 公共インフラの保全性を維持し、強化する。
 - ・ 安全性に問題のある慣習をやめさせる。
2. 法律に違わず、公正かつ誠実に責任を持って行動する
 - ・ 真実を告げ、あらゆる利害関係者に自分の行動を逐次報告する。
 - ・ 明示的、暗黙的にかかわらず、すべての契約および提携の取り決め事項を順守する。
 - ・ すべての関係者を公平に扱う。矛盾を解決するときは、公共の安全性の検討、当事者、個々人、セキュリティ専門家に対する義務をこの順序で考慮する。
 - ・ 助言や忠告は慎重に行う。不必要な不安を煽ったり、軽々しく保証したりしない。自分の権限内で、慎重かつ客観的に真実を報告する。

- ・ 管轄区域によって法律が異なる場合は、サービス対象である管轄の法律を優先する。
3. 当事者に対して、十分かつ適切なサービスを提供する
 - ・ 対象システム、アプリケーション、および情報の価値を維持する。
 - ・ 自分に対する信頼に応え、与えられた権限を尊重する。
 - ・ 利害の衝突、または利害が衝突しているかのように見える行動を避ける。
 - ・ 十分な能力とその資格のあるサービスのみを提供する。
 4. セキュリティ専門家としての知識を向上し、保護する。
 - ・ 最も適した人物に対して専門知識の促進を支援する。その他すべての条件が同じ場合、
 - ・ 適任と認められ、これらの規律に従う人物や団体を選定する。日頃の行動や評判が、セキュリティ専門家としての信頼を損なう可能性のある人物とはかかわらないようにする。
 - ・ 悪意ある行為や不注意な行動によって、他のセキュリティ専門家の評判を傷付けないようにする。
 - ・ 自分自身のスキルを向上し、常に最先端の知識を習得する。時間と知識を惜しまずに他者のトレーニングにあたる。